

県立農業大学校では、本県農業の次代を担う人材を育成するための研修教育機関として、農業を取り巻く環境が変化している中においても、学生が最新の技術や知識を身につけ、生産現場で即戦力として活躍できるよう、教育内容の充実を図っていく。

1 担い手育成に係る環境の変化と課題

- (1) 担い手の減少と高齢化 ※基幹的農業従事者は5年間で約2割減、65歳以上が62%
⇒担い手の世代交代が急速に進行するため、即戦力となる担い手の育成
- (2) 農業生産技術の高度化・ICT化の進展
⇒ICT等を活用する知識・技能をもった人材の育成
- (3) 消費者や実需者の安全・安心へのニーズの高まり
⇒環境保全や労働安全に配慮した生産(GAPなど)ができる人材の育成
- (4) 大規模化による経営の高度化と法人化の進展
⇒ビジネスとしての農業経営を実践できる人材の育成
- (5) 地域資源を活用した6次産業化の進展
⇒新事業を創出できる人材の育成



写真1 農業用ドローンの実演

2 農業大学校における機能強化の取組

- (1) スマート農業に対応した教育の充実
メーカーや農家との連携・協力による機械等の操作演習や、施設園芸における環境制御技術習得のための教育プログラムの充実
- (2) GAP教育の充実
「農業生産工程管理論」(授業科目)に加え、GAPの実践教育の充実
- (3) 経営者教育の充実
農産物の生産、販売を行う模擬会社の活動を通じた労務管理や簿記、マーケティング等の理論と実践をリンクさせた経営者教育を充実
- (4) 6次産業化に対応した教育の充実
食品衛生法に基づく加工技術の習得、農産物加工品の開発や販売、観光農園の取組などの教育の充実



写真2 農産物加工品

3 施設の改修について

県有建物長寿命化計画に基づき、今後の教育内容の充実と合わせ、老朽化した施設の大規模改修を行い、教育環境の充実を図っていく。